

平成30年度から「道徳の時間」が「道徳科」になります ～子供たちが考え、議論する道徳へ～

平成30年度から、小学校で「特別の教科 道徳」（道徳科）が全面実施されます。道徳科は、今までの「道徳の時間」と何がちがうのでしょうか。保護者の皆様の疑問にお答えします。

そもそも道徳教育の目的は何ですか？



道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下で行動し、自立した一人の人間として、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育てていくことを目的にしています。

どうして「道徳の時間」が、「特別の教科 道徳」（道徳科）になったのですか？



道徳の教科化にあたり、次のような現代の課題について考える機会が求められたためです。また、多くの仲間と議論を重ね探求し、納得する自分なりの答えを見つけだそうとする力を伸ばすためです。

- ①深刻ないじめの問題解決への対応を充実させたい。
- ②自分のよさに気付いたり、社会への関心を高めさせたい。
- ③正解が1つではない様々なことについて互いに尊重し合ってほしい。
- ④情報通信技術の発達に伴う人間関係構築のあり方について、社会全体で学んでほしい。
- ⑤かつてないスピードで変化する社会に、自らの力で対応してほしい。



道徳科の授業は、今までの「道徳の時間」の授業と何が変わりますか？



次の4点が大きく変わった点になります。

- ①国語や算数と同様に、国から無償給与される教科書を主に使います。
- ②自分ごととして今まで以上に考え、話し合うことが増えます。
- ③答えが1つではない物事について、互いの意見を尊重し合う活動を通して、子供たち一人一人が自分自身の問題として捉え、向き合う場面が増えます。
- ④子供たちを認め、励ますための評価を行います。



道徳科の授業は、教科書だけ使用するのですか？

教科書は「主たる教材」であり、教科書以外の教材を使用することもあります。

例えば、これまで配付されていた「私たちの道徳」や
県教育委員会が発行した教材「守礼」、各地域に根ざした教材、
学校で独自に作成した教材を使用することが考えられます。また、多様な教材を併せて
使用することがあります。さらに、読み物教材以外にも、映像、実話、写真、劇、
漫画、紙芝居等、多彩な形式の教材を使用することもあります。



道徳科は評価があるとききましたが、何を評価するのですか？

子供が道徳科をとおして、自分ごととして道徳的価値の理解を深めようとしていたか、また、ある道徳的価値について様々な角度、観点から考えようとしていたかを評価します。

その際、自分ごととして一生懸命考えたこと、仲間とともに学び、新たな気づきがあったことなどをほめて、認め、励ますことを道徳科の「評価」としています。

子供の評価は文章で記述し、他教科のような数値による評価は行いません。

評価は、本人や保護者の皆様に通知表等を通してお知らせします。

道徳科の評価は進学や入試に影響がありますか？

進学や入試に影響することはありません。

道徳科の評価は、個人を認め、励ます評価であり、他の子供たちと比較したりすることはありません。

よって、道徳科の評価は入試にはなじまず、入試で活用したり調査書等に記載したりすることはありません。



保護者は道徳科にどのように向き合えばよいですか？

○保護者の皆様には、子供たちに自分自身の考えを持っていることよさを感じさせていただきたいと思います。

○学校や地域での話題をもとに、子供たちと道徳的な価値などについて話し合う機会をもち、互いの考えを認め、励ましてください。

○道徳科の授業に参加し、子供とともに学ぶことも考えられます。



<参考> 文部科学省に道徳教育の特設ページがあります。御参照ください。

道徳教育アーカイブ～「道徳科」の全面実施に向けて～

HPアドレス <https://doutoku.mext.go.jp/>

QRコード

